

# 平成 27 年度全国なぎなた指導者研修会



徳地講師による基本動作の指導

平成 27 年 11 月 21 日～23 日の 3 日間、平成 27 年度全国なぎなた指導者研修会〔主催＝（公財）日本武道館・（公財）全日本なぎなた連盟、後援＝文部科学省、全国都道府県教育長協議会、千葉県教育委員会、勝浦市教育委員会〕は「なぎなた」の理解を深めるとともに指導法の充実、指導者の資質向上を目的として全国から 94 名（保健体育科 8 名を含む）の参加者を得て、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）にて開催された。

## ■1 日目（11 月 21 日）



島瀬専務理事

主催者挨拶では、はじめに島瀬美佐子全日本なぎなた連盟専務理事から「この貴重な連休に研修会に参加いただき感謝申し上げます。全日本なぎなた連盟として研修内容の検討を重ね、充実した研修会になるよう取り組んでいるところです。参加者の皆さんには学校体育や社会体育の垣根を越え、なぎなたのよりよい指導法は何かを考えながら研修に臨んでいただきたいと思います」と述べた。

次に三藤芳生日本武道館理事・事務局長より「実施 3 年を経過した中学校武道必修化においては、複数種目の実施、外部指導者の活用がともに減少傾向にあります。特に外部指導者の活用減少については、現場の保健体育科教員が武道授業を実施する傾向にあるのが

伺えます。保健体育科教員の半数が短期研修会等で取得した段位保有者ですが、指導力には問題があります。今後の課題として、柔道・剣道の実施率は合計 9 割ありますが他の

種目はどのように学校関係者に理解を得て実施校を増やしていくか、また球技など他の種目を専門とする保健体育科教員に武道の指導をどのようにお願いできるかということです。武道必修化は今後も継続実施の予定ですので、なぎなたの素晴らしさをどのように伝えるかが実施校の増加に重要です。どのようになぎなたの楽しさ、すばらしさを先生自ら示範するか、日本を代表する講師陣の指導を受け、初心に戻り学んでいただきたいと思います。また、個人の技量の向上とともに人に伝える技術の向上にも努めていただき、この 3 日間が充実したものになるように期待します」と述べた。

引き続き、小野恭子講師が講師代表挨拶に立ち「この研修会の趣旨をご理解いただき、何を学びに来たのかをもう一度考えてもらいたいと思います。正しいものを正しく学び、正しく伝えることのできる指導者になっていただきたいと思います。また、教える方も教わる方も楽しめるなぎなたを学んでいただきたいと思います」と述べた。



三藤理事  
事務局長

開講式後に行われた講義では、畠瀬特別講師が中学校武道必修化におけるなぎなたの現状について「外部指導者の皆様に何よりも心がけていただきたいことは技術のみではなく、自分自身の態度・姿勢を大切に、立ち居振る舞いから生徒が憧れる指導者になってほしいということです。学校現場へ指導に行った際には、学校の先生と十分に打合せし、ご自身だけでなぎなたをするのではなく、教員の方と二人で力を合わせて授業を展開していただきたいと思います。他の武道に比べますと非常に歩みは遅いですが、一生懸命やっておりますのでどうぞ皆様方も声を大にしてなぎなたを広めていただきたいと思います」と学校授業における心構えと授業実施校を増やすための全日本なぎなた連盟としての取り組みも合わせて報告した。



初日夜に行われた情報交換会では各県の現状が話し合われた。千葉県では県全体でなぎなたを知ってもらう機会を増やす努力をしており、子供から大人まで参加できる体験会を開催し、会員増加に努めていると報告があった。また、国体を間近にひかえている県では運営側の人手不足が深刻な問題になっており、各県で如何になぎなた人口を増やすかが課題である。徳地昌代講師（全日本なぎなた連盟審査員）から「東京オリンピック開催が決定したので総合開会式やメインスタジアムなどでなぎなたを披露することができたら環境が変わると思う」と演武披露に対する意欲を述べた。

### ■2日目（11月22日）

2日目は終日にわたり、4つの班（A 中学校武道必修化・初心者、B 部活動指導、C 社会体育・中級、D 社会体育・上級）に分かれ目的別実技研修が行われた。A 班では基本となる

中段の構えや八相の構えを中心に基本動作・体さばきの指導が行われた。



### ■3日目（11月23日）

最終日は3日間のまとめとして班別での実技研修内容の発表を行った。A 班がしかけ応じを披露すると会場から拍手が送られた。披露した参加者の「うまく出来た」という自信に満ちた表情が印象的だった。

#### 【参加者の声】

中学校武道必修化により三年前から外部指導者として地元中学校のなぎなたの授業を受け持っている関係でこの研修会に十数年振りに参加しました。教えるためには、自分自身が出来ないといけないのですが、今回は生徒に対し、どのように説明した良いか、分かりやすい表現方法は何か、基本に立ち返り一本目から八本目までの理合、防具をつけての打突と打たせ方等を一つ一つ丁寧に指導いただきました。出来ているつもりだったことも自分の悪い癖を指摘されることにより気付かされました。今回の研修会で中学校授業における「楽しいなぎなた」の実践を目指していく良い機会になりました。（千葉県・女性）

今年度から高校のなぎなた部の副顧問を任されたが、自分が未経験者のため見守るだけになっていました。今回の研修では、なぎなたの理念や精神を指導していただくとともに、教員として自分がなぎなたを通じて生徒へ何を伝えていくべきかを考えさせられました。今後は未経験の生徒も入部してくると思うので、今回の研修会の経験を活かし、生徒と一緒に稽古し、少しでも人間形成の支えになれるよう精進していきたいと思います。

（岩手県・男性）